

令和5年度 清瀬市立清瀬中学校 学校経営方針

校長 佐藤 明子



学校教育目標

人間尊重を基本理念に、国際的な視野にたち、平和を愛する社会人の形成を目指して

- ◎ 正しい判断力と粘りつよい実践力をもった生徒を育てる
- 健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる
- 高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる

生徒・教職員が安全で安心して過ごす学校を創ることを最重要課題として取り組むとともに、清瀬市総合教育計画「マスタープラン」や持続可能な社会づくりに向けた教育の確実な推進を図るため、目指す学校像及び具体的な方策を実行し、様々な場面において一人1台タブレット端末を活用しながら学校教育目標の具現化を通して、未来社会にも通用する「人」としての資質・能力を育む。

I 目指す学校像：キーワード「魅力」、「活力」、「信頼」

1 魅力ある学校

分かる・できたと実感できる授業の実践をはじめとした、魅力ある教育活動を進める

2 活力のある学校

生徒が自分の力を十分に発揮し、生き生きと活力のある学校生活を送れるようにする

3 信頼される学校

家庭・地域との連携を強化し、生徒・保護者・市民から信頼される学校を創る

II 目指す生徒像：キーワード「自己実現」

- ◎ 自分の考えに自信をもち、他を思いやりながら、自己実現できる生徒

III 教育に臨む基本姿勢：キーワード「よさ」と「可能性」

生徒一人一人の「よさ」を認め、「可能性」を引き出す指導を心掛け、生徒の自己有用感を高める。

○令和の日本型学校教育の構築＝個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実

○子供の特性を重視した学びの多様化の推進

＝教科等の本質を踏まえた教育内容の重点化と教育課程編成の弾力化

I 学習指導 <家庭と連携・協力し、基礎・基本を大切にしながら確かな学力を育成する>

①生徒が、自発的・主体的に成長したり発達したりする過程を重視した活動を行う。

②体験や事実、根拠に基づいた学習活動を展開し、生徒自らが課題解決する授業へ改善を図る。

③学習のねらいを明確にした計画的で見通しのある指導を行い、達成度を形成的に評価して、生徒が学習の意義や価値を実感できるようにする。

④「自ら意見を述べる」、「観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え選択し決定したり、発表や制作したりする」等、自己決定の場を意識的に設定する。

⑤生徒の実態に応じた丁寧で根気強い指導の実施により、基礎的・基本的事項の習得を徹底する。

⑥タブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、生徒の興味・関心を生かす多様な学習を展開する。

⑦仲間と体を動かす楽しさを自覚できる教育活動を展開し、健康の保持や体力向上を目指す。

2 生活指導・進路指導 <自他を大切にしながら豊かな心と共感的な人間関係を培う>

①「一人の人間として大切にされているという自己存在感」、「ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感」、「他者のために役に立った・認められたという自己有用感」を、生徒が実感できる活動を重視する。

②人権を大切にしながら、教育相談を生かし児童心理に基づいた指導を行う。

③I 組との交流および共同学習を積極的に行うことを通じて、特別支援教育の理解を充実させる。

④生徒に生活の見通しをもたせ、基本的な生活習慣の確立や集団における規範意識の確立を図る。

⑤いじめや問題行動の早期発見に努め、校内いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会等を通して教職員が一体となって問題へ対処することを重要視する。また、家庭や関係機関との連携を密にして、組織的対応を徹底して早期解決を目指す。

⑥不登校の生徒も含め、生徒一人一人が安全で安心して生活できる居場所を、校内に創出する。

⑦地震や火災、不審者等への危機意識をもち、安全な避難の徹底を図るとともに、生徒自らが、自分で自分の身を守る意識をはぐくむ安全教育を充実する。

⑧多様な場面や様々な人との「ふれあい」を基盤としたキャリア発達を支援する教育活動を、3年間を通して計画的に行う。

3 学校運営 <保護者、地域とともに子供を育て、信頼される教育を推進する>

①学校経営への参画意識をもち、連絡・相談を通して組織として課題や問題に取り組む。各人は、対外的には学校の代表であるとの意識をもち、丁寧かつ迅速に問題に対処する。

②各担当・担任が、便りやホームページで学校の教育活動を家庭や地域に積極的に伝える発信者になるとともに、生徒や保護者からの関係者評価を受け止め、改善することはすぐに直し、説明すべきことは説明する。

③地域の教育力を学校教育に生かすとともに、学校・保護者・地域が、それぞれのよさを発揮できる三位一体となった教育活動を展開する。

④PDCA サイクルや OODA ループの方策でものごとに取り組み、実践後すぐに次回の改善計画を立案するとともに、コスト意識をもって効率的な運用をする。

⑤誰もしが、清潔かつ安全で使いやすい施設・設備と思えるよう、日常から点検や改善を行い、教育環境を適切に整える。

4 特別活動・その他 <生徒の主体性を発揮させ、社会性や実践力を高め、達成感をもたせる>

①年間計画に基づき、生徒の主体性や社会性を発揮する学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を教科学習や総合的な学習の時間と効果的に連携して実践し、折々に適切に評価する。

②自発的な活動と当番活動を区別して、生徒の自発的・自治的な活動を重んじ、集団や自己の生活上の課題を解決し達成感や工夫を引き出す。

③活動前に生徒に活動の目標を意識させ、活動後には振り返り、達成感を味わわせ、自信を獲得しながら集団や社会の形成者としての資質・能力を育成する。

5 研究・研修 <教育公務員として、自らの資質の向上を図り、学校の教育力を高める>

①都・市、研究団体主催の研修等に積極的に参加し、学んだ成果を教育活動に生かす。

②小学校との連携と9年間の学びの連続性を大切にし、発達段階に沿った効果的な指導を行う。

③効率よい職務遂行を心掛け、自らの健康管理と家庭を大切にして教職と両立した社会人を目指す。

IV 求められる教職員像：キーワード「最適」と「組織」

◆法の遵守とサービスの厳正

◇法令及び学習指導要領等に基づき、公平・公正な教育活動を実行する。

◆プロとしての自覚と使命感

◇高い指導技術と弛まぬ研鑽、人間性あふれる温かな心をもって職務に当たる。

◇ものごとを進める際には、優先順位は「生徒への影響度」「生徒一人一人の最適化」で考え、「どうしたら実現できるのか」の視点に立ち、課題解決し、その手法を現実的に検討する。

◆組織人としての言動

◇学校経営への参画意識や当事者意識の向上による組織目標の達成を目指す。

◇ミスやトラブルのリスクと起きやすいポイントの共通認識をするとともに、主任や管理職への相談の習慣を身に付ける。特に個人情報取扱は、複数でダブルチェック体制を確立する。